

通信

生き活き通信

交通安全四分の一世紀



岸本さんは、韓国
プロ野球チームの沖縄
キャンプ誘致や韓国語教
室でも頑張っています。

て行く、会う毎に成長していく子供たちの姿を見ていると、ドラマチックで感動的でさえある。

昭和63年、私がまだ在職中、地域自治会の推薦で、沖縄県警察本部長より、浦添地区交通安全推進員として嘱咐された。

任務は毎月1日と20日の2回、浦添警察署指定の場所（私は浦添市民会館入り口交差点）で、交通安全の街頭指導の他、国賓が来沖される際や、年末の特別警戒時にチラシ配布などの補助的活動であつた。

その活動も今年で24年目に入った。その中で平成13年に定年退職してからは、小中学校が休校日以外、毎朝、所定の場所で交通安全街頭指導を行うことにした。この24年間でいろいろな人との出会いが生まれた。

父母あるいはジイちゃんバアちゃんに手を引かれて登園していた幼稚園児が、小学校に入学し、中学、高校と進む中で、身長が見る見る伸びて骨格が逞しくなつ



子どもたちの笑顔に迎えられて

大声で「あいさつ」をする児童もいるが、親が促しても恥ずかしがり「あいさつ」しない児童もある。私は「あいさつ」が出来ない児童の手を取つて、毎朝「おはよう」と顔を合わせているうちに、小声で「あいさつ」するようになり、徐々に大きな声を出すようになると、私と一緒に喜んでいる父母の顔をみて大変嬉しくなる。通勤途中の皆さんとも顔見知りになり「おはよう」と声掛けして行く人たち。バレンタイ

「義理チヨコ」「毎日ご苦労さん」と渡して行く人。またスナックなどで飲んでいると見知らぬ男性の方から「毎朝の交通安全活動ご苦労さん、今夜の飲み代は私に支払わせて下さい」と激励されたこともたびたびあり、いろいろな形で励ましを受け、嬉しさいっぱいです毎日楽しく活動している。

まーる制度」によつて、数え齢七三歳（一九三九年生まれ）、八五歳（一九二七年生まれ）、九七歳（一九一五年生まれ）の高齢に達した方には、慶祝の意を表し、祝儀をお贈りすることになつ

された会員は、退職者の今
が仲立ちして対処しますの
でご連絡下さい。

（二五）満八五歳 那覇市在
しに海兵隊が沖縄を去ること
ではないし、沖縄県民に
(嘉手納以南の) 土地が返
還されることも無い。数回

「世界の願い、交通安全」のため今朝も頑張っています

事務局だより

トウシビー（生年祝い）

今年トウシビーを迎えられました皆様へ、心からお祝い申し上げます。

私たちの退職者の会では中央協の共済生協（今年度から「ありがとう」の制度に変更されました。）とは別に沖縄県支部協独自の「結

毎日楽しく活動している。また文部省が提唱する「早寝、早起き、朝ご飯」を児童を守る毎朝の活動で私も実行でき、反対に子供たちに感謝している。職場在職中は同僚から「テマン(手当て)ネンムンヌ、フリムントイヌムン……」と冷笑されたりもしたが、挫折せずに続け、地域の人たちとの触れ合いを大切に、「黄色い制服の岸本オジサン」は

*ご存知ですか
NTTからも満年齢八八歳・米寿（五万円）、満年齢九九歳・白寿（十万円）の祝儀があります。両祝儀につきましては、誕生日の翌週以降、NTT側が健在を確認の上、現金を送金します。

トウシビー（二万円）を迎えられました。九七歳の力ジマヤー（三万円）の会員は居られませんが、多くの方々がお元気で活躍されていますことをうれしく思います。

該当します会員の皆様には、黒島会長からの祝いの文書と同時に祝儀の「振込先」を指定していただく用紙を送付していますので、記入の上返送して下さい。

ゲーツ国防長官の2月の米国下院軍事委員会の公聴会での発言を聞くと、改めて今尚、日本政府の官僚や大臣は米国の植民地下の傀儡政府の役員に思える。ゲーツは、オバマ政権後の初来日の時も同じことを述べたが、日本政府の大蔵も官僚もマスコミも「誰一人」反論しなかつた。

今回の発言は、「（普天間基地の）移設問題の解決無

*わが日本は、米国を把握次第、NTT側に連絡を行っています。情報が漏れなく届けられますよう会員の皆様のご協力をお願いします。

なお、NTT側の連絡先は、NTT西日本九州鹿児島事業部企画総務部・総務担当で、電話〇九九一八一四一七〇四一、FAX〇九九一二二七一三四〇四です。

安保という不平等条約に新政権がどのように向き合うか。日米二国間条約をどのように取り扱うか、その政策決定の根幹にかかるる問題発言であつても、日本の大巨や官僚が何も言えないのは、この国が、今、尚米国の占領下にあり、米国の植民地の証と思わざるを得ない。

の駐留根拠は、安保条約である。安保条約は、60年の再改定で、1970年以降は「条約締結国のどちらかが1年前の予告により条約の廃棄が出来る。」即ち一方的に廃棄を通告すれば1年後にはこの条約の効力は無くなり、海兵隊自身が沖縄から出て行かなければならぬ。海兵隊自身が沖縄からたたき出されるのである。